



マスクをいただいで



新型コロナウイルスが猛威をふるい、私たちの暮らしをおびやかすなか、感染予防の一つとして使用していたマスクが各地で不足するなど、深刻な問題が発生しました。そのようなときに、貴重なマスクを手作りし、当事業所に沢山寄付して下さった方がいます。地域にお住まいの長瀬なつ子さんです。ご自身のマスクも手に入りづらい状況のなか、どのような思いでマスクを寄付されたのか、インタビューを交えてご紹介します。



救いの手

ふだんの何気ない日常生活を、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい一変させました。感染するかもしれないという不安がつきまとう日々、感染リスクを減らすための情報が飛び交っています。また、世界的にマスクの買い占めが起こるなど、グループホーム美山でも、マスクの確保をどうするのかという問題に直面していました。そのような中、当事業所にたくさんのお手作りマスクを寄付して下さった長瀬さん。寄付にいたるまでの経緯など、電話でお話を伺いました。

長瀬さんの思い

● マスクを作ろうと思ったきっかけは何ですか？

「コロナウイルスでマスクが買えないなか、自宅にガー

ゼ生地でも未使用の浴衣があり、これでマスクを作ったらどうだろうというのがきっかけで作り始めました」

● たくさんさんのマスクを寄付していただきましたが、作成するのは大変だったのではないのでしょうか？

「マスクを作成するのは初めてのこと、上手くできなかつた不安もありましたが、昔から洋裁をしていたせいかスムーズに作成することができました。作り始めたら楽しくなつてしまつて、どんどん数が増えていったので、それを何か役に立てられないかと思ひ、寄付することにしたんです」



● マスクの寄付は他にもさ
れているのですか。また、
当事業所へ寄付しようと
思ったのはなぜですか？

「自宅から近くの羽生小
学校へも寄付させていただ
きました。グループホーム美
山へ寄付させていただいたの
は、毎週木曜日、そこで開催
されていたカフェに参加さ
せていただいて、大変お世話に
なつたからです。柄物のマス
クで申し訳ないけれど、使っ
てくださいね。コロナウイル
スの影響で、カフェが開催で
きない状況でもあるけれど、
いつも楽しみにしていたから
再開が待ち遠しいです」

地域密着型を
活かして

マスクの寄付は、事業所で
開催されていたカフェがきつ
かけとのことで、地域との交
流が結んだご縁であること
を大変うれしく思います。こ
んな時だからこそ、自分のこ
とだけではなく、思いやりの
気持ちをもって、皆で助け合
わなくてはいけないというこ
とを、改めて考えさせられま
した。



長瀬 なつ子さん
お忙しい中、インタビューに快く応じてくださり、
話している間もよく笑う気さくな方でした。



H30.11.22 美山カフェ陶芸教室



マスクの活用

今回、長瀬さんからは数
えきれないほどのマスクをい
ただきました。あたたかい心
遣いに感謝いたします。なか
には子供用マスクもありま
したので、有効に活用させて
いただくために、足羽福祉会
法人本部と、足羽学園にも
寄贈させていただきました。



子供用マスクを
足羽学園へ



足羽福祉会法人本部

感染症拡大という不安が
不安を呼び、人との接触を
避ける事が求められまし
た。そのような中、このたび
のマスクの寄付は、感染症
予防もさることながら、人
の温かみに触れる思いが、
この状況を乗り越える希望
を与えてくれました。
感染症の終息は、なかな
か見通せません。しかし、人
が人を想うことには変わり
はありません。元の形には
戻れなくても、新たな活動
を模索していきたいと考
えています。
感染症拡大が始まるう
とした時期にいち早くマス
クを寄付してくださった長
瀬さん。また、ほかの地域の
方々からも多数の布マスク
を寄付して頂きました。こ
の場をお借りしてお礼申し
上げたいと思います。あり
がとうございました。

グループホーム美山
ゼネラルマネージャー

藤原 行順